

第6回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
2015年6月13日(土)～14日(日)
@つくば国際会議場(茨城県つくば市)

ワークショップ1	
タイトル	健康づくり支援薬局の取り組みと薬剤師の役割
日時	6月13日(土) 9:00-10:30
企画責任者	奥野 純子 (実行委員会企画)
定員	48名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>「健康づくり支援薬局」のあり方や薬剤師の役割を理解するとともに多職種連携の重要性を理解する。さらにHbA1c測定を行い、機器の手技を学習する。</p> <p>【概要】</p> <p>国民の「健康長寿」の延伸のため、「地域に密着した総合的な健康情報拠点」としての「健康づくり支援薬局」は、一般医薬品等の適正な使用に関する助言や健康に関する相談、情報提供を行う等、セルフメディケーションや在宅医療推進が薬局・薬剤師に期待されている。</p> <p>平成26年4月に臨床検査技師法が変わったことにより、薬局等に検体測定室が設置可能となり、自己穿刺による指先採血により血糖や脂質の血液検査が可能となった。しかし、その検査結果の解釈やその後の行動を支援する体制が不可欠であり、医師、薬剤師、保健師、管理栄養士等医療関係者の連携が重要である。</p> <p>本WSでは、「指先採血によるHbA1c測定」「自己血糖測定」を行い、正確な手技を学習したあと、糖尿病早期発見の取り組みを実施している「糖尿病診断アクセス革命」について、「セルフメディケーションを支援する医療提供体制と薬剤師の役割」を筑波大学の矢作直也先生にこれまでの結果を報告してもらい、みどり薬局の坂口真弓先生から、薬剤師・管理栄養士が協働して若い方を対象に「健康と食のカフェ」を定期的で開催、生活習慣病の啓発、生活習慣の行動変容の支援、地域医師会と連携して、検査値異常者への早期受診への取り組み、の実践発言を、さらに茨城県薬剤師会の保険薬局の活動を報告してもらう。</p>	